

# 平成 31 年度 社会部会研究計画

## 1 研究主題

よりよい社会の形成に参画する資質・能力を育てる授業の創造（第8年次）

－見方・考え方を働かせて、社会に対する認識と判断する力を育む社会科学習－

## 2 研究副主題について

◎見方・考え方を働かせて → 社会に対する認識と判断の両面を育む

○見方・考え方を働かせて…社会的事象の特色や意味などを考えたり、  
構想したりする際の「視点や方法」

○認識を育む…社会がより深く分かるようにする。  
(社会における特色や意味、理論などの  
より深まりのある認識を育む。)

○判断する力を育む…根拠をもって、選んだり決めたりする力を高める。  
(友達と対話をしながら多角的に考え、判断する力を高める。)



## 3 研究内容について

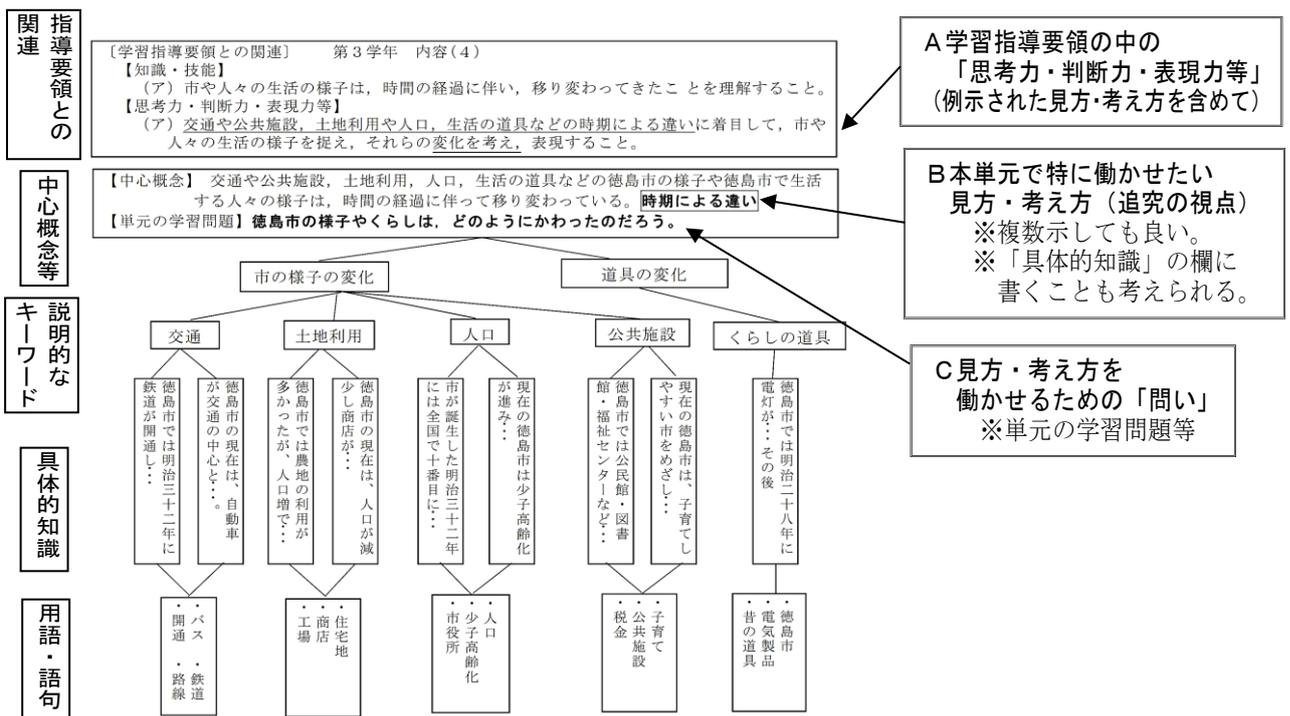
【研究内容1】単元の構造図を活用した単元づくり

【研究内容2】認識と判断が相互にかかわる場面の設定と手だて

【研究内容3】指導と評価の一体化をめざした自己評価や見取りの工夫

### 【研究内容1】単元の構造図を活用した単元づくり

以下のような単元の構造図を作成して単元の全体を見通し、工夫を考えることにより、子供が主体的・対話的で深く学ぶことができる単元をつくることができると考え、研究を進める。

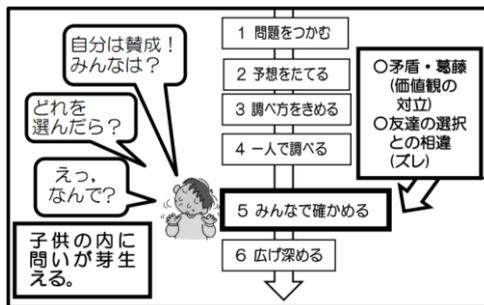


## 【研究内容2】認識と判断が相互にかかわる場面の設定と手だて

### (1) 認識と判断が相互にかかわる場面の設定

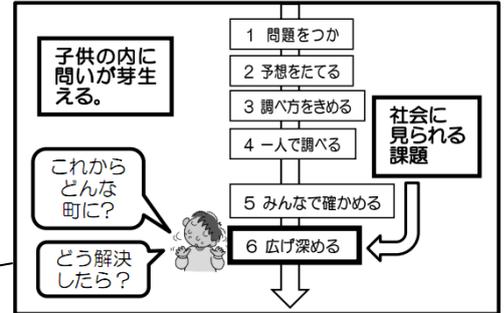
「価値観の対立」「選択や考えのズレ」や「社会に見られる課題」を意識して、子供が一度立ち止まって考える場面を設定することにより、認識と判断が相互にかかわりながら成長する学びを生み出すことができると考え、研究を進める。

#### ①「みんなで確かめる段階」における場面設定



三層	六段階
Ⅰ 問題把握	1 問題をつかむ
	2 予想をたてる
	3 調べ方をきめる
Ⅱ 意味把握	4 一人で調べる
	5 みんなで確かめる
Ⅲ 発展	6 広げ深める

#### ②「広げ深める段階」における場面設定



- 矛盾や葛藤から「賛成?」「必要?」「納得?」「問題なし?」などを問うことにより、自分や友達の「価値観の対立」が生じる。
- 「特に○○なのは?」「一番の理由は?」「○○と言えるか言えないか?」のように問うことにより、自分と友達の「選択や考え」に「ズレ」が生じる。

- 社会に見られる課題をふまえることにより、「何が課題か」「どうすれば課題の解決につながるのか」を考えようとする意欲が生じる。

※授業の途中に判断の問いを投げかける場合もあり得る。

### (2) 認識と判断が相互にかかわる場面における手だて

(1)で設定した場面において、見方・考え方を働かせて自らの考えをつくったり、友達との議論を深めたりできる手だてを講じることにより、「認識」と「判断する力」の両面を育めると考え、研究を進める。

#### ①発問について（焦点化する問いかけ）

子供が判断して発言したことを生かして焦点化する問いを投げかける（ゆさぶる・切り返す・整理するなど）ことにより、見方・考え方を働かせ、子供同士が活発に議論できるようにする。

#### ②資料について（追究の視点を意識した資料）

「位置や空間の広がり」「時期や時間の経過」「事象や人々の相互関係」などの追究の視点を意識して地図、年表、関係図などの資料を提示することにより、見方・考え方を働かせ、議論をする際の根拠となるようにする。

#### ③板書について（社会の仕組みや関係が見える板書）

社会に生きる人々の関係性や社会の仕組みが子供に見えやすい板書へと子供の発言を整理することにより、見方・考え方を働かせ、議論の流れが可視化できるようにする。

#### ④ツールについて（対話を促すツールの活用）

「何のために」「どのタイミングで」「どのツールを」用いるのかを考えた上でツールを活用することにより、見方・考え方を働かせ、考えを表出したり議論を整理したりできるようにする。

## 【研究内容3】指導と評価の一体化をめざした自己評価や見取りの工夫

子供たち自身が学びを振り返り、自分の成長や変容を実感できるようにする。そして、表出した学びを教師が見取る。指導と評価の一体化をめざして、両方の学習評価について研究を進める。

- 子供の自己評価の工夫について研究
- 教師の見取りの工夫について研究

※詳細な研究計画は、社会部会 HP に掲載しております。ご活用ください。  
<http://shokyoken.tokushima-ec.ed.jp/shakai/>